

「第4回県立高校の再編整備に関する意見を聴く会」の実施結果について

1 日程・参加者等

地域	小豆	東かがわ・さぬき	高松	中讃	三豊・観音寺
日時	5月10日（日）	5月12日（火）	5月10日（日）	5月13日（水）	5月11日（月）
	10:00～12:00	19:00～20:30	15:00～16:30	19:00～20:30	19:00～21:00
会場	サンオリーブ	寒川農村環境改善センター	社会福祉総合センター	丸亀競技場	観音寺市民会館
	(小豆島町)	(さぬき市)	(高松市)	(丸亀市)	(観音寺市)
参加者	29名	23名	44名	31名	32名
一般傍聴者	99名	7名	0名	2名	20名

2 意見（抜粋）

○小豆地域

- ・統合するのであれば、校地の選択を慎重にしてほしい。
- ・豊島の住民は、家から通え、部活動なども普通にできる教育を望んでいる。現状でも、豊島から土庄高校までは遠く、それ以上遠くなると通えなくなる。
- ・今後、具体的な検討を行う際には、意見を聴くというよりは、議論が交わせる場を設けてほしい。
- ・島民の総意は2校存続であった。報道発表の前に島民に説明すべきであった。
- ・統合が避けられないなら、統合校の校地をめぐって両町間で綱引きが起こらないようにしてほしい。例えば、校地は交通の便がいい土庄高校とし、校名は小豆島高校として伝統を残すといったことが考えられないか。
- ・中間地に統合校を作るとは可能か。新しい校地に学校ができるのであれば、できるだけ早くしてほしい。
- ・統合するのであれば、通学への支援をしてほしい。
- ・子どもたちの考えを聞くと、1校になるのはいやだという意見がある一方、小規模になるのもいやだという意見もあった。統合するのであれば、統合のデメリットの解決に努めてほしい。
- ・学校の魅力をどう感じるかは、感性豊かな15歳の子どもと大人とではギャップがある。若い世代に調査をするなどして、魅力ある学校にしてほしい。
- ・統合は残念だが、学校の活力低下や島外への生徒の流出などが懸念されるという県の説明は理解できる。大部分の生徒が島内で学ぼうと思える学校づくりに努めてほしい。
- ・小豆地域への特別支援学校の設置を希望する。

○東かがわ・さぬき地域

- ・理数科や国際類型の見直しに際しては、当初設置した時の趣旨を踏まえ、他の分野が不得意でも、得意分野での道が開けるものにしてほしい。
- ・小豆島の醤油や、三本松の手袋など、地域産業と結びついた教育を行えないか。
- ・地域間の生徒移動の状況を分析し、生徒の流出を食い止める対策が必要である。地元の高校が、地元の生徒を幅広く受け入れられるものにする必要がある。
- ・三本松高校は、理数科を持つ特色ある高校である。理数科を学科として残してほしい。

○高松地域

- ・理数科のくくり募集は、理数教育の専門性を高めるという本来の存在意義を薄めることにはならないか。
- ・国際類型については、なぜ定員割れをしたのかを分析することが必要である。
- ・今後、自己推薦制度の検証をしていく必要がある。職業学科は自己推薦枠の割合をもっと増やしてもいいのではないか。また、推薦する条件や求める生徒像をもっと明確にしていくべきである。

○中讃地域

- ・製造業だけでなく産業全体の状況が分かる資料がほしい。また、県の産業振興に関する計画における目標などを資料として盛り込めないか。
- ・高校卒業後の進路状況が具体的に分かるように、中学生に情報提供をしてほしい。
- ・中学校3年生の段階で進路を決めるのは難しいので、職業系高校の大学科間でもくくり募集をしてほしい。

○三豊・観音寺地域

- ・三豊・観音寺地域には、定時制が普通科の1校しかない。専門学科の定時制を検討できないか。
- ・総合学科がどのようなものか地域にもっと広報することが必要である。
- ・中讃地域への生徒流出を防ぐための対策を図るべきである。